

循環器リハビリテーション教育プログラムについて

近年、心不全患者が増加の一途をたどっており、周術期に限らず退院後や維持期のフォローとその教育が重要となってきております。また循環器内科の症例が増加し、再入院予防など生活全般を診る教育プログラムが必要となってきました。また高齢者においては身体機能面だけでなく、社会背景、精神認知機能の問題など様々な問題を抱えており、包括的な視点を持った理学療法士の養成が一層必要となってきております。

当院では医師、看護師、理学療法士、作業療法士など多職種が所属する心不全センターを有し、包括的な視点を持った人材を養成することを目標としています。

そのため心臓外科周術期患者に加えて心疾患を有する内科系の患者もあわせて担当し、幅広い循環器疾患の理学療法が実施できる人材を養成するため旧プログラムを新たな「循環器リハビリテーション教育プログラム」として再構築しました。

2018年8月

金井香菜、三尾直樹